

表1 防衛投資計画（DIP）の主な内容

軍の変革 (Transforming our Armed Forces)	士気の回復と人材確保の強化：インフレ率を上回る3回の給与引き上げと、軍用住宅のリニューアルを実施する。これは、今後10年間で90億ポンドを投じる「防衛住宅戦略」が裏付けとなっており、軍用住宅の10軒中9軒が改修または近代化される。また、軍人の家族を最優先とする新たな「防衛住宅サービス」の創設、新たな不動産基準の策定、そして余剰の防衛用地における新住宅建設の加速化も進める。
	自律性：今後4年間で50億ポンド以上を自律システムに投入する。新たな自律型艦艇や無人潜水艇を備えた「ハイブリッド海軍」、人工知能（AI）、武装自律車両、ドローンによって変革された陸軍、そして陸上基地や航空母艦から運用可能な、新たな自律型戦闘機を備えた「次世代王立空軍」を構築する。スウィンドンには新たな「防衛無人システムセンター」を設立し、これらの能力を全軍に実装するための「無人システムタスクフォース」を設置した。
	陸上戦闘能力：200億ポンド以上を投じ、自律システム、長距離ミサイル、人工知能（AI）、装甲車両を通じて陸軍の戦闘能力を急速に10倍に拡大する。これは、あらゆるレベルでの「偵察・攻撃」による戦闘という新たな戦術理念に裏打ちされている。この投資は、NATOに向けた変革された戦略予備軍団というわれわれの長期的な取り組みに寄与するものである。
	サイバー・電磁領域：サイバー・電磁領域に25億ポンドを投入し、新たな「防衛サイバー・電磁部隊」を拡充するとともに、作戦行動の自由を確保し、恒常的なサイバー攻撃から英国を防衛する。
	宇宙：英国宇宙司令部（UK Space Command）へ投資し、宇宙活動の把握能力の向上や軌道上の重要な国家資産の保護を含む、宇宙支配能力を強化する。
英国の防衛産業支援 (Backing British)	英国産業と英国の人材の技能の強化：2023年度の水準と比較して、2029年度までに6万人近くの新規雇用を創出し、新たな「防衛技術エクセレンス・カレッジ」の設立や防衛関連学位への資金提供を通じて、英国の人材の技能向上に投資する。「防衛産業戦略」を実施し、防衛調達制度を改革し、英国の輸出を拡大するとともに、協議を経て新たなオフセット制度を導入し、海外から調達する場合でも、必ず英国での雇用と利益が創出されるようにする。
	英国の核抑止力の確保：国家安全保障の礎である核抑止力を近代化・維持するため、今後4年間で「防衛核事業（DNE）」に対し、過去4年間よりも200億ポンド以上多く投資する。これにより、新型の抑止力潜水艦や核弾頭の資金を調達し、核燃料プログラムを確立し、「ドレッドノート」級原子力弾道ミサイル潜水艦の後継艦の仕様策定を開始し、防衛核施設全体のインフラをアップグレードする。DNEへの投資に加え、戦闘機「F-35A」を購入し、NATOの「二重用途航空機（Dual Capable Aircraft, DCA, 注1）」核任務にも参加する。
	退役軍人支援：退役軍人局を通じて、退役軍人支援に7,000万ポンドを投資する。英国全土に新たな退役軍人支援拠点を設置する「VALOUR」プログラムを実施するとともに、「Op RESTORE」「ASCENT」「COURAGE」「FORTITUDE」（注2）を支援し、軍務に就いた人々が退役後も国防省から支援を受けられるようにする。
	イノベーション、AI、量子技術：今後4年間で英国防衛イノベーション（UKDI）に16億ポンドを投資し、防衛分野全体における先進技術および軍民両用技術の開発、拡大、導入を加速させる。これには、グローバル戦闘航空プログラム（GCAP）、共同戦闘機（CCA：自律型戦闘機）、プロジェクト・アスガルド（注3）からハイブリッド海軍に至るまで、全軍におけるAIおよび量子技術の導入・活用の拡大が含まれる。これらは、タスクフォース・RAID（AI投資基金）およびプロジェクト・フロンティアへの新たな2億ポンドの投資によって支援する。
	造船：新たな自律型水上艦、自律型水中艦、オランダとの共同での可能性も視野に入れて水陸両用艦隊、および将来の「共通戦闘艦（Common Combat Vessel）」に投資するとともに、ノルウェーとの共同で13隻の「タイプ26フリゲート」、5隻の「タイプ31フリゲート」、および艦隊支援艦（Fleet Solid Support ships）から成る統合部隊を整備する。
	陸上産業能力：テルフォードに新工場を建設し、シェフィールド・フォージマスターズ社の英国産鋼材を使用することで、重砲砲身の国内製造を再開した。これらの復活した施設は既にウクライナへ砲を供給しており、陸軍の新型RCH155榴弾（りゅうだん）砲用の砲身も供給する予定だ。さらに、BAEシステムズ・グラスコード社が第2の溶融鋳造設備を設立したことで、弾薬生産を大幅に拡大した。今議会期間中も英国の製造業の再建を進める意向であり、陸軍の次世代小銃の国内生産計画に加え、「チャレンジャー3」「アジャックス」「ボクサー」各戦闘車両への継続的な大規模投資を予定している。
	航空宇宙分野：2040年代に向けて「タイフーン」戦闘機部隊を近代化・維持するため、11億ポンドを超える新規投資を行う。これは、世界をリードする英国の航空宇宙産業にとって大きな利益となり、国内の雇用を支え、英国経済に多大な投資をもたらすと同時に、大きな輸出機会も生み出す。F-35を追加購入することで、それらに付随する多くの仕事が英国国内にもたらされる。また、3億ポンドの投資を背景に、第4世代および第5世代戦闘機と並行して運用される「共同戦闘機（CCA）」の開発を通じて、戦闘航空産業を拡大する。これらを組み合わせることで、英国空軍（RAF）が欧州初の第6世代空軍となるための重要な一歩を踏み出し、GCAP（次世代戦闘機計画）への道筋を確立する。
新たな高速ジェット機訓練システムとレッドアローズ：近代化された高速ジェット機訓練システム向けに新型ジェット機を導入する。これにより、レッドアローズ（注4）も老朽化したホーク機を更新することが可能となり、今後数十年にわたり若い世代の関心を喚起し続けることになる。これは、英国企業が大きな役割を担う新たなジェット機訓練システムの一環である。	
英国のリーダーシップ強化 (Stepping up UK leadership)	NATOへの公約の履行：政府は、次期議会において国防費をGDPの3%に引き上げることを公約しており、国防を最優先事項とする次回の支出見直しにおいて、資金調達と計画が提示される予定。英国はNATO加盟国とともに、2035年までに国防費をGDPの3.5%に引き上げることを公約しており、引き続き履行に尽力する。NATOが次回の能力計画見直しを行う2029年には、全ての加盟国がその進み具合と支出を見直すことになる。
	弾薬の補充：弾薬および兵器に11億ポンドを投じ、英国の備蓄を増強するとともに、ディーブ・プレジジョン・ストライク（注5）、低コストの巡航ミサイル、ワンウェイ・エフェクター（注6）など、あらゆる種類の標的を最も効率的な方法で撃破するために、英国軍が適切な「ハイ・ロー・ミックス」の能力を保有できるようにする。2030年までに、少なくとも6カ所の新たな火薬工場を建設し、国内の弾薬生産能力を拡大する。
	統合航空・ミサイル防衛：今後4年間で、英国本土および海外基地の航空機、ドローン、ミサイルの脅威に対する防護を強化するため、7億9,000万ポンドを投じる。これにより、指揮統制体制を改革し、新たなレーダーやセンサー、さらに追加の短距離対ドローンシステムを導入する。指向性エネルギー兵器への投資を継続し、45型駆逐艦向けの「シー・バイパー（注7）」をアップグレードするとともに、新たな統合航空・宇宙・ミサイル防衛作戦センターを建設する。
	重要な水中インフラ：英国水域内およびその周辺における敵対的活動に対処するため、重要な水中インフラの保護に3億3,000万ポンドの新規投資を行う。
	デジタル・ターゲティング・ウェブ：新たな「デジタル・ターゲティング・ウェブ」を通じて英国軍を統合するため、18億ポンドを投資する。これにより、統合部隊全体のセンサー、意思決定者、実行装置が連携し、世界をリードするAIとソフトウェアを基盤として、領域を横断して特定した標的の能力を低下させる、または破壊する方法を迅速に決定できるようになる。
	防衛科学技術研究所（DSTL）：DSTLへの投資プログラムの一環として、ポートン・ダウンに新研究所を建設する。この研究所は、NATO創設の立役者の一人であるアーネスト・ベニンにちなんで命名され、英国および同盟国に対する生物学的脅威からの防護に関する新たな研究を可能にするもの。

（注1）核兵器の搭載が可能な航空機。

（注2）いずれも退役軍人（一部はその家族も含む）向けのサービスで、それぞれ医療支援、メンタルヘルス支援、就職支援、ホームレス対策支援を指す。

（注3）AIと通信ネットワークを活用し、遠距離の標的を迅速に発見することを可能とするプログラム。

（注4）英国空軍のアクロバット飛行チーム。

（注5）長距離からの精密攻撃。

（注6）使い捨てを前提にして、回収を念頭に置かず用いられる兵器。

（注7）英国海軍の艦隊向け防空システム。

（出所）英国政府「防衛投資計画」

表2 分野別の投資額

(単位：100万ポンド)

分野	金額 (2026～2029年度)
人材および退役軍人	78,500
防衛核事業	63,600
空軍	27,800
防衛インフラおよび不動産	22,700
陸軍	19,200
海軍	18,000
兵器および弾薬	11,100
デジタルバックボーンおよびターゲティング・ウェブ	7,500
科学、イノベーションおよび技術	4,300
宇宙	3,200
統合支援能力および防衛医療サービス	2,900
サイバーおよび電磁波	2,500
防衛産業および調達	510

(注) 機密性の高い費用、運用上の費用の一部、および一部の分野横断的な支出は含まれていない。

(出所) 英国政府「防衛投資計画」